

■呉市の国民健康保険での医療費適正化の取組

呉市の医療費適正化の先進的な取組とその効果は全国的に有名である。独自システムによりデータベース化したレセプトを点検し、ジェネリック医薬品促進、重複・頻回受診者訪問指導、重複服薬指導、併用忌避医薬品情報提供、生活習慣病放置者フォロー事業を行っている。

本市でも同様の取組がされているが、利用データは単年度のもので、担当1名であり継続しての指導ができない。呉市では

専門スタッフが充実しており、毎年のデータを蓄積しているので、状況を経年で追うことが可能である。その他、市役所・医療機関・大学・民間団体の連携チームにより糖尿病性腎症等重症化予防プログラムを実施しており、連携体制ができていたためか、医療費適正化の考えが医療関係機関だけでなく市民にも広く理解されていると感じた。

■呉市の小中一貫教育の取組について

中1ギャップの解消と自尊感情の向上のため、平成19年度より全ての中学校区で小中一貫教育を実施している。中学校1校に対して1~2校の小学校で一貫校とし、1~4学年・5~7学年・8~9学年区分とし、自尊感情が急激に低下する思春期を5~7学年で安定して迎えられる。校舎は既存のものを利用してあり、隣接する校舎を渡り廊下などでつないで一体型とするものと、離れた校舎のまま分離型とするものの2つの形がある。

担任による一部乗り入れ授業や、一部教科担任制、合同授業などを実施。独自の講師加配により円滑に一貫教育が進められるよう配慮している。

現在は9割の保護者が一貫の効果ありと認め、アンケートでは自尊感情向上が示されている。低下していた学力は、近年では県・全国平均を上回っている。呉市の近隣市でも、小中一貫教育が増え始めているという。足利市でも研究していきたい。

■尾道市の空き家再生プロジェクト

尾道は目の前には瀬戸内海が広がり背面には山があるという街並みで、昭和に入り山の坂道エリアに多くの家が建つことになったが、交通の便の悪さから現在は空き家が多い。

『NPO法人尾道空き家再生プロジェクト』は、坂道エリアを中心に、古民家の空き家をおしゃれにリフォームして、若者・外国人向けドミトリー(一泊2,800円)や交流スペース、カフェとして活用したり、市の委託により空き家バンクの開設をしている。

リフォームを市民参加のワークショップで開催したり、移住者が地元で根を張るための生活サポートがされている。古いものを活かして利用するという姿勢は、市政120年の尾道と同様に歴史のある足利でも大切な視点だと感じている。



西日本豪雨災害で被災された皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

活動報告 就学援助・生活保護を受けている世帯の子どもへの学習支援 『学舎足利』

日本では、7人に1人(13.9%)の子どもが貧困状態であると言われています。現在の教育制度の下では、収入の差が学力の差に繋がる事が多く、親の貧困が子どもの世代へと連鎖してしまう貧困の連鎖が問題とされています。

●足利市の学習支援

生活困窮者自立支援法(2015年)の中で、生活困窮世帯の子どもへの学習支援事業が任意事業に位置付けられ、足利市でも開始されました。足利市の学習支援は市内4カ所で開催されているため通いやすいですが、期間は夏休みと冬休みのみ、対象は中学生(冬休みは3年生のみ)です。通年での継続的な開催と、勉強が嫌になる前の中学入学前の年齢からの支援が必要と感じています。

●学舎足利とは?

私が3年前よりボランティア仲間とともに貧困の連鎖を断ち切るために開始した学習支援で、就学援助・生活保護を受け

ている世帯の小学校4年生~中学3年生を対象としています。毎月2回、夏休みは毎週開催しています。会場は1カ所のみですが、送迎ボランティアにより送迎対応をしています。学ぶことが楽しいと思ってもらえるように、机をいくつかの島のように配置して、できる限り1対1で子どもに寄り添えるよう心がけています。また、市内高校のご協力のもと、高校生ボランティアの参加があり、お姉さん・お兄さんから勉強を教わるようにしています。また、論語カルタや数学ゲームなどカードゲームを用意し、息抜きしながらも学べる環境を整えるとともに、プログラミング講座や理科実験教室など、体験型の学習で楽しく学べる機会も設けています。



足利市議会議員 金子ひろみ

【プロフィール】●昭和54年足利市伊勢町二丁目生まれ、38歳 ●相生小学校、第三中学校、栃木県立足利女子高校卒業 ●中央大学商学部経営学科卒業 ●スリランカ、ガーナ、ミャンマーでボランティア活動を行う ●青年海外協力隊として南米ポリビアにて、コーヒー栽培普及・収入向上プロジェクトに携わる ●介護施設で勤務、社会福祉士国家試験に合格 ●平成23年4月 足利市議会議員に初当選 ●平成24年に結婚、二児の母 ●平成27年4月 足利市議会議員に2期目当選

〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14
TEL&FAX 0284-42-8747
メールアドレス info@kanekohiromi.com
ホームページアドレス kanekohiromi.com
Twitterで@sari_hiromi をフォロー!

足利市議会議員

金子ひろみ通信

いつもありがとうございます。

vol.11



[発行元] 〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14 TEL&FAX 0284-42-8747
ホームページ kanekohiromi.com E-mail info@kanekohiromi.com

ごあいさつ

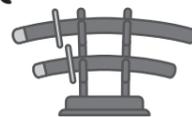
2018年度は4月にあしかがフラワーパーク駅がオープンし、4~6月はJRグループのデスティネーションキャンペーン実施に合わせて市内で多くのイベントが開催され、フラワーパークやまちなかを始め全市的に多くの観光客が訪れました。足利市議会では2018年3月議会で『観光都市宣言』を決議しましたが、この宣言で観光の取組の後押しができたと思っています。

現在は、民生環境水道常任委員会委員長、足利市子ども子育て会議委員、社会教育委員などに任命されていますが、議会外活動も充実してきました。また、今年は『子どもの権利条約フォーラム2018inとちぎ』という全国的なイベントが11月3・4日に足利市で開催され、その実行委員になっています。様々な活動の中でたくさんの方に出会い、いい刺激を日々受けています。

●議会レポート●

平成30年 3月議会一般質問

- 1 まちづくりについて
(1) 刀剣展の今後 (2) 歴史と文化を活かしたまちづくり
- 2 国民健康保険制度について
(1) 医療費適正化の取組
- 3 女性の活躍推進について
(1) 子育て中の女性の活躍支援



平成30年 6月議会一般質問

- 1 子ども支援について
(1) 子どものための条例 (2) 子どもの最善の利益の実現
- 2 市職員の採用について
(1) 職員の採用
- 3 Uターン促進について
(1) 高校での地元企業研究



平成30年 3月定例議会 一般質問 ピックアップ

●刀剣展の今後

Q オンラインゲーム「刀剣乱舞」ブームの中、平成29年3月に開催した山姥切国広展では、本市ゆかりの堀川国広作の刀剣を展示し、地元商業会との連携もあり3万8千人の方が来場した。その後季節ごとの刀剣イベントも成功している。刀剣を新たな足利の歴史・文化の1つの切り口とし、戦略的に予算・計画を立てながら、山姥切り国広の再展示や、同ゲーム内で人気の刀剣『山伏国広』の展示をしてはどうか。

A 和泉市長:山姥切国広や山伏国広の展示は、本市との関連について研究を進め、重要文化財を展示する環境を整え、実現に向けて取り組んでいきたい。教育次長:山姥切国広展示の際に、展示環境について文化庁から指摘があり、今後重要文化財の展示時には施設整備の改善が必要。刀剣の調査研究も相応の期間が必要と考える。それぞれに予算が必要であることから、計画を作成しながら準備をしなければならない。

私の意見
今後の施設整備、調査研究を進めるためにも戦略的に計画を立てて予算を確保しながら、ブームが去る前に迅速に行っていくべき!

Q 4月から6月に開催されるデスティネーションキャンペーンに合わせて、刀剣展示をはいかがでしょうか。

A **教育次長:**タイトなスケジュールであるが、人が来るチャンスととらえてキャンペーン中の刀剣展示を検討している。



実現しました!

デスティネーションキャンペーン期間中、早雲美術館にて「早雲と刀工たち」として、**足利市ゆかりの刀剣3振りの展示が実現されました!**

●歴史と文化を活かしたまちづくり

Q 刀剣ブームで訪れた多くの刀剣ファンが足利ファンになったと聞いているが、その要因の1つは地元商業会を初めとする官民連携の対応と市民のおもてなしの心である。市が持つ魅力は、まず市民が理解してこそ発信力が高まり、おもてなしも浸透する。改めて、商店向けの著作権の勉強会や、市民も楽しめる刀剣と足利の歴史の発信をはいかがでしょうか。

A **産業観光部長:**著作権に関しては、足利市でガイドラインを作成した上で、協力いただける店を協力店としてホームページに掲載している。市民向けには、身の回りの多くの文化資源を市の貴重な宝として、しっかり発信していきたい。



私の意見

著作権に関して、お客様から商店が指摘されたという事例も聞く。ガイドラインを作成して協力店に見てもらっただけでなく、一度しっかりと勉強する場を設けるべき。

●国民健康保険 医療費適正化の取組

Q 医療費の適正化で全国的に有名な呉市では、国民健康保険の医療機関の診療報酬明細書をデータベース化して、ジェネリック医薬品への切り替え促進、薬の飲み合わせや複数医療機関からの重複処方の確認、医療機関の重複・頻回受診、生活習慣病を放置している場合など様々な分析をし、それを元に保健師や看護師が個人を訪問し指導に当たっている。本市でも同様の事業が実施されているが、医療費を適正化するだけでなく、病気が重症化する前に発見できる機会と捉え、事業を周知させることで市民の理解・協力をより一層得られるようにすべきではないか。健康増進課の地区担当保健師に指導後の対応を引き継ぎ、継続して関われないか。

A **生活環境部長:**重複・頻回受診は、人員の関係で新規の方への指導しか行えないが、40%の方が指導後に受診方法の改善が見られている。出前講座や検診、健康づくり事業の中で周知していきたい。また、指導後も多面的な形で関わっていく必要があるため、健康増進課の保健師と連携していきたい。

★国が目標値として示すジェネリック医薬品の利用率は80%で、**足利市は79.4%と全国的に高水準**です。

●子育て中の女性の活躍支援

Q 国は女性の活躍を推進しているが、第1子出産を機に離職する女性は約6割である。子育てをしながら働く世帯を支援する施策は幅広く展開されているが、職場や社会の意識の醸成はまだ途上である。市の審議会等の委員に託児サービスを付け、子育て中の方の参加を促進し、その意見を幅広く施策に取り入れてはどうか。

A **総務部長:**男女協働参画審議会の委員に、「託児対応します」という案内を付けて募集をし、女性が応募しやすい環境を作りたい。



実現しました!

今後、男女共同参画審議会以外の会議でも託児対応できるようにし、子育て世代を応援する足利市として当然のサービスという位置づけにしてほしい! ←**こちらも実現しました!**

●子どものための条例

Q 子どもの学や育ちを支援する「子ども条例」の制定を目指すことは、足利市子ども・子育て事業計画で示されている。条例を制定し、子どもを支援していく事業を展開すべきと考えるが、現在の進捗状況はどうか。また、制定に関して市で調査するだけでなく、子ども・子育て会議で意見を求めているかどうか。

A **健康福祉部長:**現在は新たに条例を制定した複数の市や、条例廃止した1市へ実態調査をし、効果と内容について研究している状況。子ども・子育て会議は市内の子どもに関する活動をされている方々がメンバーのため、機会を見て意見を伺い参考にしていきたい。
和泉市長:子どもを保護の対象と考えるのではなく、権利の主体と考えるのは大切な視点である。常に色々な施策で「子どもを主体」と考え取り組んでいきたい。

●子どもの最善の利益の実現

Q 2016年に改正された児童福祉法には第1条に子どもの権利条約に関する文言が追加され、第2条では子どもの意見の尊重と最善の利益について触れている。しかし現在展開されている施策では、「子どもが権利の主体・子どもを支援する」という視点が欠けている。子どもの権利条約の普及のため、大人向け以外にも子ども向けのリーフレットを作成してはどうか。また、子どもの意見を吸い上げて、政策に反映させる取り組みはできないか。

A **健康福祉部長:**足利市人権教育・啓発推進行動計画の中で、こどもの人権を1つの課題として掲げ、リーフレットの配布や虐待防止についての講演会の実施などを行っている。また、SOSモニターなどで子どもの声を救済に結びつける取り組みをしている。子どもが権利の主体であるという視点は新しい視点であることから、福祉・教育分野で連携しながら、子どもに分かり易い広報や方法や、子どもの意見を取り入れる仕組みを考えていきたい。

●市職員の採用

Q 本年3月に厚生労働省が「年齢に関わりなく転職・再就職者の受け入れ促進のための指針」を策定した。社会情勢が反映されたこの指針を本市はどう捉えているのか。また、過去に行われていた社会人経験者枠の採用を再開してはどうか。

A **総務部長:**指針に関しては、人物・能力本位の採用や職務遂行能力の訂正な評価などの点については、採用のあるべき姿と考える。しかし地方自治体の特殊性を考えると、若年層の人材を採用し育成していかなければならないと考える。社会人採用は現在休止しているが、専門職試験において上限年齢を引き上げており、新規採用職員のうちほぼ半数が社会人経験者となっている。



私の意見

様々な経歴の職員がいれば物事が多角的に捉えられるため、社会人経験者が一定数いてこそ良い職員バランスだと考える。専門職採用では保健師の年齢要件が34歳、保育士が39歳であったが、その他の行政職は29歳までである。民間企業での経験を活かしていただくため、社会人採用を再開させるべき。

●高校での地元企業研究

Q 優秀な人材を確保することは企業にとって重要な課題である。「足利の高校を出て都市部に進学し、そのまま就職して帰ってこない」と良く言われる。高校生に足利の企業をアピールしたり、成人式で帰省した若者向けに足利の情報が掲載されたパンフレットを配るなど、市内企業を知ってもらう機会を設けてはどうか?

A **産業観光部長:**栃木県では都内に就職サポートセンターの開設や、就活アプリを運営し県内企業情報を配信している。足利市でも、就職ガイダンス、情報センターの開設、佐野市と合同の面接会などを行っている。大学進学前の高校生や成人式参加者にアプローチする機会はこれまでなかったが、有効と考え、方法を検討していきたい。



私の意見

大学生が利用する大手就職活動情報サイトでは、まず最初に『どの県の職を探すか』を選択するため、その時点で栃木県で就職する気が無ければ栃木の募集情報は表示されません。しかし、足利には優秀な企業、自然豊かな生活環境や充実した子育て環境などがあるため、もし足利が選択肢にあがれば、都心部と比較して足利が選ばれる可能性はあると思います。まず知ってもらう事、それが大切だと思います。